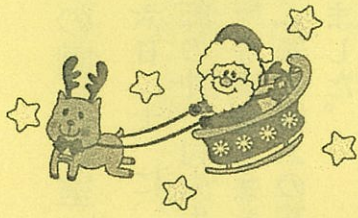


小島地区ふれあいセンターだより



令和6年12月 第414号 運営委員会発行

愛宕3丁目10-2 電話826-7703



12月の行事予定

※毎週月曜日及び12月29日(日)～31日(火)は休所日です。

開催日	行事名
3日(火)	小島地区ふれあいセンター運営委員会 午前10時～11時
4日(水)	生涯元気事業(すこやか教室) 午前10時～12時
6日(金)	子育て教室 午前10時～11時30分
10日(火)	小島中学校区青少年育成協議会
12日(木)	小島愛宕地区老人連合会定例会議 午前10時～11時
18日(水)	生涯元気事業(すこやか教室) 午前10時～12時
21日(土)	小島地区民生委員児童委員協議会定例会 午後1時30分～
28日(土)	正月用いけ花教室(主催講座) 午前10時～12時

【お知らせ】

「正月用いけ花教室」(主催講座)開催の御案内

日時 12月28日(土) 午前10時～12時
場所 小島地区ふれあいセンター 1階 図書室
内容 フラワーアレンジメントを楽しみませんか！

お花は活けたまま、お持ち帰りできます。

(※お持ちいただく物 花ばさみ、お花を持ち帰り用の大きなビニール袋)



(これはイメージです)

講師 納 富 やい子 先生

参加費 3,500円(材料代)

定員 20名(先着順)

申込先 小島地区ふれあいセンター(電話826-7703)

申込方法 直接来所、又は、電話によるお申込み(午前10時～午後4時30分、月曜日を除く)

申込日 12月1日(日)～12月20日(金)

皆様のご参加をお待ちしています!!

○長崎開港前後の海外との交流②

※この後、長崎の町は爆発的に発展しています。

- ・天正8年(1580)大村純忠、長崎と茂木をイエズス会に寄進する。
- ・天正10年(1582)遣欧少年使節、ローマへ派遣(1590年帰国)
- ・天正12年(1584)有馬晴信、浦上をイエズス会に寄進する。
- ・天正15年(1587)豊臣秀吉、九州征伐断行。バテレン追放令を発すると共に、イエズス会へ寄進されていた長崎・茂木・浦上を没収し天領とする。
- ※1588年、イギリス(ドレイク提督)スペインの無敵艦隊を撃破する。(アルマダの海戦)
- ・文禄元年(1592)長崎奉行 寺沢志摩守広高、本博多町に奉行所を設置。
- ・慶長元年(1597)二十六聖人が長崎西坂の丘で殉教。
- ※殉教者の会派はフランシスコ会。最初に布教していたイエズス会とは別会派の団体。

○関が原の戦い以降

- ・慶長5年(1600)オランダ船、デリーフデ号大分に漂着(4月)。※関が原の戦い
- ・慶長14年(1609)オランダ商館を平戸に開設した。(1641年に長崎へ移転)
- ・元和2年(1616)唐船を除く外国船の貿易を長崎と平戸に限るとする。
- ・元和8年(1622)スピノラ神父等55名を処刑(元和の大殉教)
- ・寛永2年(1625)平戸オランダ商館、閉鎖される。(1632年再開)
- ・寛永10年(1633)オランダ商館長の江戸参府が始まる。
- ・寛永11年(1634)長崎奉行所、外浦町に移転、東役所、西役所となる。出島築造開始。
- ・寛永14年(1637)島原の乱。^{37,000}人が原城に立てこもり幕府軍と戦う。
- ・寛永16年(1639)ポルトガル人を国外追放。外国貿易をオランダと中国に限る。
- ・寛永18年(1641)オランダ商館、平戸から長崎の出島へ移す。
- ※以降217年間オランダの国旗が出島に翻る。
- ・寛文3年(1663)寛文の大火発生。(57町^{2,900}戸を焼失)
- ・寛文12年(1672)長崎の町数80町。(内町26町、外町54町)新しい長崎の町発足。

次は「昔と今の長崎発見」①

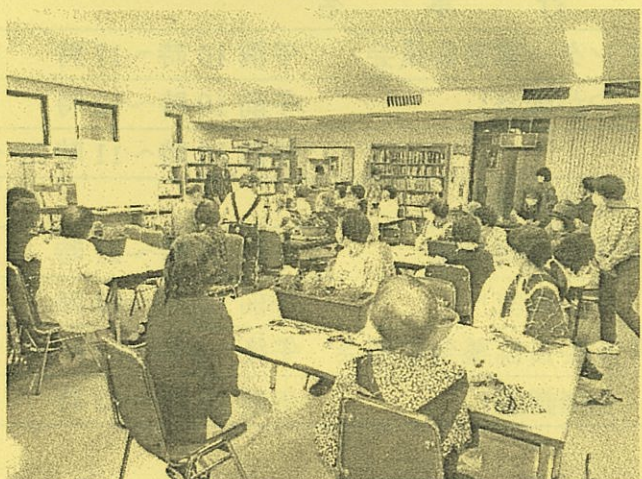
「秋の園芸教室」講座について

十月二十六日(土)に、小島地区ふれあいセンターの主催講座として、講師の沖迫司先生(フラワーおきさこ代表)による「秋の園芸教室」を開催しました。

テーマは「寄せ植えの基本・花苗を植える」で、二十六名の方が参加されました。

寄せ植えの花の種類は、ガーデニングシクラメン、パンジー、金魚草、ビオラ、ノースポール、キンセンカ、カレンデュラ、アリッサムなどの花が用いられました。

参加者の皆さんは、和気あいあいと、美しい秋の花の寄せ植えを楽しみました。



かるたとり(一)

子供の頃、正月には家の行事のひとつとして「かるたとり」をしたものだ。畳の上に下句の札を散らし、上句を読み始める、と、「ハイ」と返事して札を取った。得意の札は目をつけて、絶対に取られないように目配りをした。歌の意味なんて考えたこともなかった。そのうち学校に上がり、授業の中で百人一首にもある和歌を学んだが、現代語訳は、「ああ恋歌」かなどの解釈で面白くもなかった。

このたび、齢八十にして、本棚に昔あそんだ「百人一首」の箱があつて開けてみると懐かしい坊主の絵が見られた。

前大僧正慈円の絵である。高校時代に慈円の名は「愚管抄」ということで覚えていた名であつた。歌をみると「おほうけなうき世の民におほふかなわがたつ袖に墨染めの袖」とあつた。どういう意味かとしらべてみると、「身の程も知らずと言われるかもしれないが、この浮世を生きたる民の平穏を願って比叡の山に住みはじめた私の墨染めの袖で包んでやろう」となる。歌の意味はそれでいいかもしれないが、彼が生きた時代、その時代の社会背景を知らないとは解釈は難しい。

日本の歴史には少し知識があるので、この歌を詠んだ背景を見てみると、父・藤原忠道は「保元の乱」の首謀者で身分も所領も財産も全部取り上げられ、そのような環境の中で慈円は若くして出家した。

厳しい修行に明け暮れ、努力して天台宗の座主となっている。

長崎雑話(8) 竹方其

かるたとり(二)

慈円は、何十年も続く貴族社会と武家社会の不協和音を一日も早く終わらせ、公武融和を図って安定した世の中を築きたいと願った。

そのような世の中を終わらせようと、ついに後鳥羽院は倒幕計画を進め北条義時の追討の院宣を発し挙兵(承久の乱)したが敗れた。後鳥羽院は隠岐に配流された。争いを止めさせるため争いが起こり、その都度、多くの民の血が流された。

仏に仕える慈円大僧正にとって、これほど辛い悲しいことはなかった。そういう中で詠まれた歌である。このように、時代の社会背景に焦点を当てないと真の解釈はできない。

「百人一首」は、飛鳥時代から鎌倉時代初期、つまり天智天皇から順徳院までの五五〇年の間の代表的な歌人百人の和歌を一人一首集め作られた秀歌撰である。

天智天皇は七世紀、順徳院は十三世紀の天皇・上皇である。

これで分かるように、およそ五世紀半の中で世の中は大きく変わっていった。大化の改新により私地私民制から公地公民制へ、国民みな平等で平和な世を築こうとした時代から、貴族(官僚)の努力により文学面で女性の活躍する時代、そして武士の台頭により貴族社会が崩れようとする時代。「百人一首」の選者である藤原定家は、この崩壊してゆく貴族社会の中で、これからの世の中を、どう生きていけばよいのか、また日本がどのような進み方をするのか不安を感じる生活であつた。

「ふれあいバザー」開催に伴うバザー献品の 出品お願いについて

「小島地区ふれあいセンター」では、ふれあいセンターの円滑な運営を図るため、春に「ふれあいバザー」を開催しています。

本年度は、次のとおり、「ふれあいバザー」を開催することといたしましたので、お出かけいただきますよう、ご案内申し上げます。

開催日時 令和7年3月2日(日) 午前10時から11時30分まで

開催会場 小島地区ふれあいセンター 1階 図書室・児童図書館

つきましては、上記の主旨をご理解いただき、バザー献品の出品について、ご協力をお願いいたします。

なお、出品のご協力をお願いいたしますバザー献品の内容は、次のとおりです。

衣類・調度品・寝具類・和洋装品・食品類・台所用品（陶器類、漆器類など）

日用雑貨・小物類

バザー献品につきましては、誠に恐れ入りますが「小島地区ふれあいセンター」まで、ご持参下さいますようお願いいたします。



〈新着図書のご案内〉



	書 籍 名	著 者 名	出 版 社
一 般 図 書	甘いものには棘がある	山本 巧次	双葉社
	ごんげん長屋つれづれ帖	金子 成人	双葉社
	霧の路	藤原 緋沙子	講談社
	テーブル茶道	富田 尚子	日本実業出版社
	窓ぎわのトットちゃん	黒柳 徹子	講談社
	ケアマネ女優の実践ノート	北原 佐和子	主婦と生活社
	スタスタ歩ける健脚を2カ月でつくる！	石部 基実	すばる舎
児 童 図 書	いいおかお	さえぐさ ひろこ	アリス館
	バットマンション	北川 佳奈	アリス館
	あこがれの図書館	パトリシア・ポラッコ	さ・え・ら書房